

VLED 第3回技術委員会

議事録

1. 日 時 平成28年1月27日(火) 10:00~11:40
2. 場 所 YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所 8F 大会議室
3. 出席者 主 査：越塚登（東京大学大学院情報学環 教授）副主査：武田英明（国立情報学研究所 教授）
委 員：平本健二（経済産業省 CIO 補佐官）、中尾彰宏（東京大学大学院情報学環 教授）深見嘉明（立教大学ビジネスデザイン研究科 特任准教授）
社 員：日本アイ・ビー・エム、日本電気、日本電信電話、日本マイクロソフト、日立製作所、富士通、三菱総合研究所（事務局）
オブザーバ：内閣官房 IT 総合戦略室、国立国会図書館
事務局：三菱総合研究所、YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所
4. 配布資料 資料 3-1 第2回技術委員会議事録
資料 3-2 他の委員会の開催状況報告
資料 3-3 オープンデータガイド(活用編)に掲載するシナリオ
参考資料 3-1 2015年度第3回技術委員会 座席表
参考資料 3-2 2015年度第3回技術委員会 委員名簿
参考資料 3-3 オープンデータガイド(活用編)案内
参考資料 3-4 データの利活用・公開に有用なツール集記事抜粋
5. 議題
 1. 他の委員会の開催状況
 2. オープンデータガイド(活用編)の精査
 3. データの利活用・公開に有用なツール集の精査
 4. 意見交換
6. 決定事項
 - 本日の議論の内容を整理して活用編に盛り込む。
 - ツール集について、GitHub が利用できない方向けに、原稿執筆依頼も並行して行う。
 - 次回開催日程を事務局がメールで調整する。

7. 議事録

(1) 前回議事録確認

- コメントがあればご連絡をいただきたい。(越塚主査)

(2) 他の委員会の開催報告

- 前回の技術委員会以降に、データガバナンス委員会、利活用・普及委員会、2020 オープンデータシティ推進委員会が開催された。(事務局)
- オープンデータの取組は盛んになってきている印象。(越塚主査)
 - オープンデータの事例については、どういう選定基準になっているのか。(委員)
 - データ活用の観点からお手本になるものを事例として紹介している。(越塚主査)

(3) オープンデータガイド(活用編)の精査及び意見交換

- データの公開・利活用に関する懸念事項について
 - ガバナンスに関する点は関係者が気にする点でもあり、データガバナンス委員会との調整が課題か。(委員)
 - 法的問題の前に、ビジネスイシューとして扱うべき。(越塚主査)
 - ガイドに書いてあるとおりにやれば問題ないという人が出てくるので、書き方に気をつけるべき。(委員)
 - 懸念事項ばかりあげつらうよりは、類似事項ではこうした、など潜在的な問題点をあげて注意喚起すればよい。(委員)
 - データガバナンス委員会でもグレーゾーン問題を議論中なのでこの議論を紹介しておく。(事務局)
 - 自治体ではオープンデータの成功事例を紹介しないと上司を説得できないと聞いている。教科書的に大丈夫なものを紹介し、グレーゾーンは別資料にしたほうがよい。(越塚主査)
- ガイドの構成について
 - 導入しやすい事例から紹介するように、事例の並べ方も戦略的にしたほうがよい。(委員)
 - 想定する読者レベルの幅が広いので、難易度のパターンをいくつか示すべき。(社員)
- その他掲載内容について
 - 活用シナリオの前半は具体的で後半は抽象的であるが、ゴールはどのあたりを目指しているか。(委員)
 - シナリオ 4 (観光ガイド) ~シナリオ 5 (タクシー配車管理) くらいの内容を目指したい。(事務局)
 - スポーツ観戦情報があればおもしろい。(委員)
 - 競技団体との提携がないと使えないが、事例として紹介できるとよい。(越塚主査)
 - いちからデータを集めてアプリを公開するまでの経緯を具体的に書けるとよい。(委員)

- 地図は Google Maps を用いて紹介しているが、国土地理院地図も事例に活用できることを紹介するとよい。(オブザーバ)
- 活用事例については、もっとたくさん入れたほうがよい。(委員)
- データを PDF で出している自治体について紹介しているが、データの整形を気にする必要があると書くべきか。(委員)
 - ここでは、整形の手法を紹介することが目的である。(事務局)
- 制約なしに進められる事例を紹介したうえで、それを横展開するシナリオにしたほうがよいのではないか。また、国の指針として観光情報を出す、というがあるのでこれを起点としたデータ活用を検討すべき。データの収集、蓄積、加工、見える化の一連の作業とそれにかかわる作業者のマトリクスを作成して、それぞれがどこを適用しているかを示すとよい。(社員)
- オープンデータを作るところから説明しているが、他の団体が公開しているデータやサービス(API)を利用するというシナリオがあってもよい。(委員)
- データホルダー、デベロッパ、ユーザといったオープンデータのステークホルダーのデベロッパに向けて出すシナリオであることを明確にすべき。データのガバナンス的に、使う時の課題と出すときの課題が混在しているのでわかるべき。またほかのデータとのマッシュアップについても説明するとよい。(越塚主査)

(4) データの利活用・公開に有用なツール集の精査

- ツール集については各社へ依頼状を送る。GitHub に直接掲載するか、紙で提供していただくかは各社の方針で進めていただきたい。(事務局)

(5) その他

- 次回委員会は、3月25日までに開催する予定で事務局がメールで調整する。(事務局)

以上